

平成27年度教育研究交流委員会 国際交流事業

オーストラリア セントラル・クィーンズランド大学 (CQU) 看護学生の研修受け入れ

教育研究交流委員会：畠田理佳、金子典代、山口知香枝、
山口孝子、香月富士日

I. はじめに

教育研究交流委員会では看護学部の国際化推進の一環として、平成24年度からCQUとの教員間・学生間の交流を発展させてきた。今年度はオーストラリア政府の新コロボ計画（学部生のインド太平洋地域への海外留学等を支援する事業）の交付金を受け、国際看護の研修として来日したCQUの学部生6名と教員2名を本学部にて受け入れた。受け入れ期間中にCQUの学生は看護学部の授業に参加したり市大病院や保健所での乳児健診を見学したりして、日本の保健医療について学んだ。本稿ではこの事業について報告する。

II. CQUとのこれまでの交流

看護学部教育研究交流委員会では平成24年にCQUとの交流を開始し、平成25年夏に3週間の看護系語学研修プログラムとして本学部の学生8名を派遣した。CQUからは平成26年3月にTrudy Dwyer准教授を、平成27年2月にはReid-Searl Kerry教授を招聘し、“Mask-Ed™”と“Pup-Ed™”の講演会やワークショップ、オーストラリアの看護制度や看護師養成の現状、CQUの看護教育に関する講演会を開催するなどして交流を進めてきた。CQUでは海外への学生派遣を活発に行っており、今年度は本学部での研修を希望したことから、これを受け入れることとなった。

III. CQUからの研修生

日本とオーストラリアでは看護教育のシステムにいくつかの違いがあり、今回受け入れた研修生たちにもその特徴の一端がみられた。日本では一般的に看護基礎教育は全日制課程としてカリキュラムが組まれているが、オーストラリアでは学生の事情に合わせた履修形態の選択が可能である。CQUでも数多くの学生が遠隔教育により単位を取得し卒業しており、今回受け入れた研修生も全員が遠隔教育を受けている学生であった。また、社会人学生が多いというのもオーストラリアの特徴の一つである。研修生の学年は1-2年生が2名、2-3年生が4名であったが、年齢は19から44歳と幅広く、乳児や幼児

を持つ若い母親も何人かおり、家事・育児と学業を両立させながら看護師を目指しているとのことであった。

IV. 研修・交流プログラム

1) 交流昼食会

日時：平成27年7月6日(月)

場所：西棟サクラサイドテラス

参加者：本学部教員合わせて合計12名

内容：CQU側と看護学部側の関係者が揃う初顔合わせの場であった。食卓を囲んで自由に語り合いながらコミュニケーションをとり、相互理解を深めるとともに翌日以降のスケジュールを確認して再調整を図った。

2) CQUの紹介講演会

テーマ：CQUの紹介およびオーストラリアの看護教育

日時：平成27年7月7日(火) 10時00分～11時30分

場所：看護学部410講義室

参加者：教員、学生約20名

内容：引率教員のTrudy Dwyer氏とDeborah Friel氏より、スライドを用いながらCQUの概要、オーストラリアの医療事情、看護師教育と就労状況、卒後教育などが説明された。参加者にはオーストラリアの医療およびCQUの教育への理解を深める機会となった。
(写真1、写真2)

3) 3(4)か月児健康診査見学

日時：平成27年7月7日(火)

場所：昭和区保健所

内容：保健所スタッフの案内により3(4)か月児の健康診査を見学した。研修生は保健師や小児科医に積極的に質問をするなど強い関心を示した。また、自国のコミュニティミッドワイフと比較し、一人の子どもに対して長くフォローアップすることへの驚きや、日本では父親が

付き添って来所することにも感心していた。

たとのことであった。(写真5)

4) 精神障害者リハビリ施設寸心カフェ見学

日 時：平成27年7月8日(水)
場 所：寸心カフェ(御器所)
内 容：引率教員、研修生とともに寸心カフェを訪ね、カフェで働いている精神障がい者などの活動を見学した。また、職員からはリハビリテーション施設の取り組みなどの説明を受けた。研修生は、活動の様子や利用者が作成した展示作品などに関心を示し、積極的に質問をしていた。

5) クリティカルケア看護援助論演習

日 時：平成27年7月8日(水)
場 所：西棟実習室A・B
内 容：研修生を本学部3年生の演習グループに一人ずつ振り分け、一緒に演習に参加してもらった。学生たちは身振り手振りも交えながら方法を確認しあい、お互いに看護師役、患者役を体験しながら看護技術を学んだ。(写真3、写真4)

6) 名古屋市立大学病院見学

日 時：平成27年7月8日(木)
場 所：名古屋市立大学病院(救急外来、小児病棟、NICU・GCU、産科病棟、保健指導室、地域連携室、外来化学療法室、中央手術室、ICU・PICU・CCU)
内 容：各部署の責任者より説明を受けながら院内を見学した。施設面では日豪間で大きな違いはないものの、先端医療が提供されており専門性の高い看護師が活躍していること、アトリウム災害対応や災害備蓄などの危機管理が整備されていることに関心を示していた。院内の清潔感や落ち着いた雰囲気などの環境面にも感動していた。

7) 名古屋市立大学病院シャドー研修

日 時：平成27年7月10日(金)
場 所：名古屋市立大学病院 一般病棟、小児病棟
内 容：3病棟に2名ずつ配置され、病棟看護師の日常生活援助や診療の補助業務を間近で見学した。看護師がワゴンにノートパソコンを載せて移動し、常時患者の情報を入力していたことがもの珍しく、また、病棟管理、看護師の丁寧なケアする姿や感染予防行動には感動し

V. おわりに

CQUの研修生は日本に来て異文化に触れ、本学部の学生たちと共に過ごし、日本滞在を楽しんだようである。病院や地域の保健医療現場に赴くことによって多くの気づきがあり、参加した研修生からは今後、看護師として活動する際に役立つ経験ができたと感想が寄せられた。引率したCQU教員からも学習成果に対する感謝が述べられ、今回の受け入れ事業は成功したと評価できる。本学部、CQUとも双方が学生・教員間の交流の成果を確認し、今後も交流を継続することを強く希望している。今後ますます活発に交流を重ねる意義があると考えられる。

VI. 謝 辞

本プログラム実施にあたりご協力くださった名古屋市立大学看護学部、名古屋市立大学病院、精神障がい者リハビリテーション施設寸心カフェの皆様には感謝申し上げます。本事業は本学の平成27年度特別研究奨励費(国際交流推進関係)「研究課題名：オーストラリア セントラル・クィーンズランド大学(CQU)との教育・研究における交流の推進」による助成を受けて実施しました。

表1 滞在中のスケジュール

月 日	午 前	午 後
7月6日(月)	学部長挨拶 キャンパスツアー・看護学部棟案内	交流昼食会 オリエンテーション
7月7日(火)	CQUの紹介講演会	3(4)ヶ月児 健康診査の見学
7月8日(水)	精神障害者リハビリ施設寸心カフェ見学	クリティカルケア看護援助論の演習参加
7月9日(木)	名古屋市立大学病院見学	名古屋市立大学病院見学
7月10日(金)	名古屋市立大学病院病棟でのシャドー研修	委員会メンバーと研修のまとめ



写真1 講演会での研修生たち



写真2 CQUの紹介講演会



写真3 本学部の学生とともに演習する様子



写真4 患者役と看護師役も体験



写真5 病棟内にて